

区分	卦(か)	卦 爻 の 本 文
62	雷山小過	<small>しょうか とお ただ よ しょうじ か だいじ</small> 小過は、亨る。貞しきに利ろし。小事には可なり、大事に <small>か ひちようこれ いん のこ のぼ よろ くだ</small> は可ならず。飛鳥之が音を遺す。上るに宜しからず。下る <small>よろ おお きち</small> に宜し。大いに吉なり。
	初爻	<small>ひちよう きよう</small> 飛鳥もって凶なり。
	二爻	<small>そ す ひ あ きみ およ</small> その祖を過ぎ、その妣に遇う。その君に及ばずして、その <small>しん あ とが</small> 臣に遇う。咎なし。
	三爻	<small>す ふせ したか そこな</small> 過ぎてこれを防がざれば、従いてあるいはこれを戕う。 <small>きよう</small> 凶なり。
	四爻	<small>とが す あ ゆ あやう かなら いまし</small> 咎なし。過ぎずしてこれに遇う。往けば厲し。必ず戒む <small>えいてい もち</small> べし。永貞を用うるなかれ。
	五爻	<small>みつうん あめふ わ せいこう こう いぐるみ か</small> 密雲あれど雨降らず。我が西郊よりす。公、弋して彼の <small>あな お と</small> 穴に在るを取る。
	六爻	<small>あ す ひちよう かか きよう</small> 遇わずしてこれを過ぐ。飛鳥これに離る。凶なり。これを <small>さいせい い</small> 災眚と謂う。

※書き下し文は、易経(上)(下)～高田 真治、後藤 基巳訳(岩波文庫)を参考にしています。